

せきね 知っ得! 通信

12

December 2021

社会保険労務士法人せきね事務所 せきね FP 事務所
〒947-0028 小千谷市城内 2-4-26 TEL0258-83-3048 FAX0258-83-3049
メール sekinekyrs@mountain.ocn.ne.jp ホームページ <https://www.office-sekine.com>
第135号 発行：2021年12月

穏やかな年末年始を過ごしたいのに、オミクロン株…。
あっという間だった2021年を振り返ってみたいと思います。

大雪とドタバタの年度末

年初からの大雪で周辺の除雪、カーポートの雪降ろしでヘトヘト。今後、年を重ねてからもこの地に住み続けることができるのだろうか…と不安になりました。

また、2月～3月頃、「労働基準監督署の調査が来た」という事業所が多く、調査立ち合いや指導を受けての報告書作成などの対応に追われました。ただでさえ忙しい年度末に忙殺されましたが、比較的人数の少ない事業所の調査が多く「監督署は年度末に向けて調査件数を伸ばしたかったのかなあ？」などと勝手に想像していました。



雇用調整助成金など申請に明け暮れる日々

昨年から引き続き雇用調整助成金等の提出代行を行っています。度々の申請様式の変更や状況によって有利になる様式を選ぶなど、きめ細やかな申請を心掛けている分、手間がかかりました。

また、急に一部の雇用関係助成金に受付終了宣言が発令！ご案内した事業所様に何とか受給してもらいたい一心からてんてこ舞いになりました。苦労した甲斐があり、年末にかけ徐々に支給決定の報告を受け喜んでいきます。



夏、感染拡大ですべて中止に

夏頃から感染が拡大し、予定していた全ての事業・イベントが中止になりました。業務をテレワークでこなし、どこにも行かない・誰とも会わない日々が続きました。長引く自粛生活の出口が見えず、ストレスを感じていました。心の拠り所となったのが東京五輪での日本人のメダルラッシュとエンジェルス大谷翔平選手の活躍でした。皆さんもそうでしたよね。



落ち着き取り戻し趣味も可能な範囲で

感染が落ち着き、10月ごろから講演やセミナー講師の仕事も再開。趣味では、松山のマスターズ優勝からゴルフ熱が上がりましたが上達は見られず…。ゴルフ仲間が増えたことだけが収穫でした。

また、休みがちでしたが日本画教室に通い、今年もさぶろくさんを描いた絵を市展に出品しました。市展では実力不足を痛感しましたが「参加することに意義がある」という信念でくじけません。



皆様、良い年をお迎えください！

厚生労働省を名乗る不審電話

厚生労働省を名乗る者から民間事業主に対し、「パワハラなどハラスメント防止の推進企業の認定制度がある。来社して説明させてほしい」と電話が入る事案が発生し、厚生労働省が注意喚起を行っています。

現在、ハラスメント防止に関する厚生労働省の認定制度はありませんし、厚生労働省や都道府県労働局の職員がこのような電話をすることもありません。

公的機関を名乗られると、「きちんと対応しなければ」と応じてしまう方もいるでしょう。しかし、相手が不審者であった場合には、個人情報流出させたり、悪質な営業活動や詐欺に巻き込まれてしまったりするような事態にもなりかねません。

ほかにも、厚生労働省の職員を名乗る者から、次のような内容での不審電話・メールがあったとの報告がされています。

- ◆ 「雇用動向調査に協力しなければ、罰金を支払ってもらう」
- ◆ 「調査のため家族構成、年収、資産、年金額等を教えてほしい」
- ◆ 「戦争で亡くなった方の年金で払いすぎた分がある。直接訪問するのでその際に返してほしい」
- ◆ 「医療費控除の還付金がある。振り込むので、銀行／郵便局のATMに行って電話をしてほしい」
- ◆ (年金機構を装うメールで)「個人電子年金情報の更新」等の件名で、任意のホームページに誘導し、個人情報を入力させようとする。



たとえ公的機関を名乗られても、相手の言うままに応じるのではなく、まずは相手の名前や担当部門などを問い、少しでも不審に感じた場合には一度電話を切りましょう。

正式な連絡であるか、関係機関に照会することで被害を防ぐことができます。



Z世代とは？

Z世代とは、厳密な定義はありませんが、主に1990年代後半から2000年代前半（2021年現在の年齢は10代～20代前半）に生まれた世代のことを指します。

なお、主に1960～70年代に生まれた人をX世代、1980～90年代に生まれた人をY世代（ミレニアル世代ともいう）と呼び、「Y」の次世代という点からZ世代という名称が付けられました。



Z世代の特徴

Z世代は、子どもの頃からインターネットや各種デバイスが身近にあり、当たり前のようにそれらを利活用しているデジタルネイティブであることが最大の特徴です。

そのため、ネットリテラシーが高く、AR（拡張現実）やVR（仮想現実）、動画配信、AIなどの最新のテクノロジーに関心を持っていることも特徴です。



また、この世代の学生時代には、スマートフォンが普及し、SNSも一般的になりました。SNSをコミュニケーションツールとして使いこなし、情報収集や情報発信をすることからSNSネイティブ世代とも呼ばれています。

さらに、Z世代の多くの人々は、SNSを通じて性別、年齢、国籍に関わらず様々な人と交流し、意見交換を行っています。そこで様々な価値観に触れお互いの個性を尊重するため、多様性（ダイバーシティ）や個性を重視する傾向にあるようです。

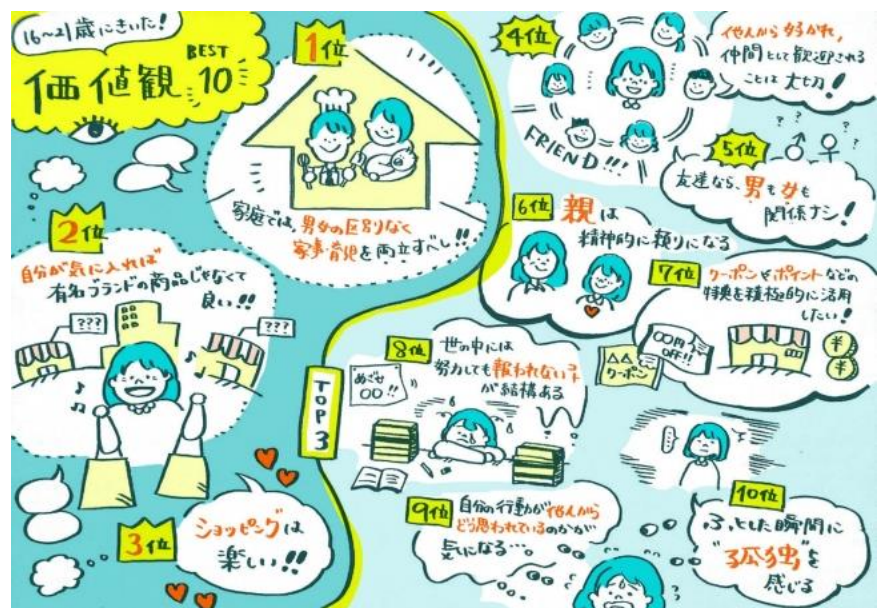


Z世代が中心の社会に向けて

Z世代という言葉が、今年の「現代用語の基礎知識選1-キャブ新語・流行語大賞」の30語にノミネートされました。

Z世代は、現在現役で働いているX、Y世代とは異なった価値観を持った世代であるため、彼らが今後社会に進出、活躍し消費を支える年齢層になったときの働き方や企業活動、マーケティング等への影響が注目されています。

企業は、彼らの特徴を理解し受け入れる体制を準備することが必要です。



「気になる！」を勝手に情報発信コーナー

書籍

たみおう
民王

池井戸 潤

いつもの池井戸作品とは趣の異なる作品。ややSFチックな政治エンターテインメントコメディ。

総理大臣・武藤泰山はある日突然息子の翔と体が入れ替わってしまう。夢かうつつか新手のテロか？混乱を避けるために、息子の翔が総理大臣、父の泰山が就活中の大学生として生活することに。息子は政治にまったく関心がなく、勉強も大の苦手。国会答弁でも漢字の読み間違いを連発。一方、父・泰山は就活の面接で、傲慢で上から目線な発言を繰り返し、内定はゼロ。次々に起こる難題にどう立ち向かっていくのか…？

登場人物同士のテンポのいい会話が笑えます。池井戸さんはこんな引き出しもあるのか〜と驚きました。10年近く前の作品とは思えない新鮮さがあり、バカな政治家やスキャンダルしか取り上げないマスコミなどを風刺しつつも、こうあってほしいという希望を面白可笑しく表現していて、とても楽しめました。続編が出ているそうなのでそれも読んでみたいと思います。



映画

風に立つライオン

2015年公開

さだまさしさんがケニアで活躍した日本人医師、柴田紘一郎氏をモデルに描いた同名の楽曲を作り、それに感動した大沢たかおさんが企画し自ら主演した映画。

シュバイツァーの自伝に感銘を受け医師を志した主人公は、日本に恋人を残しながらも、大学病院からケニアの研究施設に派遣される。さらに、現地の赤十字病院から1カ月の派遣要請を受け赴任すると、そこで目にしたのは、内戦によって体も心も重傷を負って次々に運ばれてくる少年兵たちの姿だった。

撮影しやすい南アフリカではなく、ケニアロケを敢行。撮影現場まで護衛が付き、全員が予防接種して撮影したそう。戦争の激しさや痛々しさに胸が苦しくなり、子どもたちの無邪気な笑顔に救われます。世界での国際支援活動を知り、私にもできることがあるのではと思い、微力ながら行動を起こすきっかけとなりました。



今月のさぶろく

(せきね事務所の看板ねこ・5歳3ヵ月)

先日の予防接種で「太りすぎ」を注意されたので食事の量を減らしてダイエット中です。

最近は、暖房によって温められた空気を求め棚の上など高い所でくつろぐことが多いさぶろくさん。カロリー消費も抑え気味なのでダイエットが成功するか心配です。

